



まるお

<道しるべ>

心配ないからね、君の勇気が、誰かに届く明日はきっとある
どんなに困難でくじけそうでも
信じてことさ必ず最後に愛は勝つ
信じてことさ必ず最後に愛は勝つ

1990年KANが作詞作曲

<学校教育目標>

自ら学び 自他を尊重し
心豊かでたくましい生徒の育成

<重点目標（スローガン）>

感謝+優しさ=笑顔と幸せへの道

発行：長崎市立丸尾中学校

文責：校長 川口 猛

令和8年6月18日（木） NO.9

慌ただしく過ぎていく6月。まもなく7月（文月） 慌ただしい出来事の中で、学びたいこと、学ばなければならないことが沢山……

いざ出陣！（古いかな……）長崎市中総体！

6月13日～14日にかけて、長崎市中総体が行われました。本校からは、男子バスケットボール部、陸上競技部が出場しました。

本校に限らず、どこの中学校の生徒もこの大会のために来るいい練習を乗り越え、仲間と支え合い、決戦に臨んだものと思います。

私は、バスケットボールの競技部長の一人だったので、長大附属中学校体育館に配置となり、うれしいことができました。本当ならば、本部席に座って黙って応援すべきところ、本部席から声を出して応援することは禁止ということを競技役員から教えてもらい、応援席ならいいだろうと場所を変え、応援をしました。対戦相手は、何の因果か、前任校の岩屋中学校でした。選手たちは、策の雪辱を晴らそうと、必死にプレーをしていました。次第に点差が大きくなろうとも、決してあきらめることなく最後まで攻め続ける姿勢に、私は、心が熱くなりました。選手の姿にどんどん自分が吸い込まれていくのを感じ、前任校への心名残がどんどんなくなって、丸尾の応援ができることを心から楽しむことができました。頑張った選手たちに心から感謝したいです。

残念ながら、陸上競技は見ることはできませんでしたが、顧問の先生から話を聞いたり、ホームページで記録を確認したりして、頑張っているその様子を想像し、また、胸が熱くなりました。陸上競技は、タータンというゴムでできたトラックを走るの、土で速く走れるからタータンで早く走れるとは限らないスポーツで、ちょっとしたフォームや動きの変化で、記録が驚くように上がる競技です。中学生は限られた競技しかありませんが、どの種目にも、特別な技術を要求される奥の深いスポーツです。試合時間が短ければ短いほど良い結果という競技です。まもなく、通信陸上を迎えると思いますが、全国大会参加標準記録に少しでも迫れるレースを期待しています。事前に行われた激励会を写真を掲載します。沢山は照会できませんが、選手の真剣なまなざしが感じられます。（個人情報保護のため、申し訳ありませんが、写真の解像度は落として掲載いたします）



総合的な学習の時間の取組の様子

現在、総合的な学習の時間の中で、全学年、平和学習を行っています。各学年テーマを設定し、探求していく学習を行っています。1年生は、大テーマが「原爆・被ばくの実相を知る」～平和の尊さ～の下、「ナガサキ」「ヒロシマ」の被爆の惨状、「第五福竜丸事件」「チェルノブイリ原発事故」「核兵器の恐ろしさ」などを調べ、「戦争や被ばくを調べ、追及していくことで平和の尊さや命の大切さを考えます。1年生は、被爆遺構めぐりも行っており、目で見て、聞いて学習します。

2年生では、「世界の核兵器の現状」～原爆の悲惨さ～をテーマに、「核兵器の増減」「持っている国とその言い分」「持っていない国とその言い分」「核軍縮は進んでいるのか」「長崎大学 RECNA」などを探求していきながら、これらに関することで各自が知りたいことを調べ深めていきます。

3年生では、「これまでの平和学習を生かして自分の意見を発信しよう」～人類の幸福～をテーマに、「核拡散防止条約（会議）」「高校生平和大使」「長崎大学 RECNA」などを調べて探求を深め、これらに関することで各自が知りたいことも調べ、発信していくことを目標に取り組んでいます。

グループで調べている様子です。学校掲示用はほかしはなしです



そよ風広場～美術科の作品～



生徒玄関前のそよ風広場に美術科で制作した作品が掲示されています。個性あふれ、素晴らしい作品ですね

6月になって感じること

6月に入って、梅雨だけれども、大雨が降っていないことはありがたいことのように感じます。中総体の1週間前に行われた高校総体は、あいにくも雨でしたが、中総体は、雨で競技が流れることもなくよかったと感じます。一方で、梅雨の時期に、大雨ではなくてよいので、雨が降っておく必要を感じている人たちもいると考えます。例えば、農家の方です。特に稲作を行っている農家の方々は、この梅雨の時期に雨が降らなければ、死活問題になります。何事も『適度に』が大事な気がします。

さて、梅雨末期は梅雨前線が活発になり、大雨が降りやすいです。最近の気象も以前と違って、一度に降る雨が長く、かつ大量に降ることから、気象庁の警戒レベルも以前とは異なって、命を守る行動を前提にした情報が出されるようになりました。大雨という自然災害は、私たち長崎とは決して無関係ではないと思います。このことについては、今回は控え7月に発行する学校だよりで触れたいと思います。次に記すことは、災害に備えたり、災害時に注意をするべきことの一部です。この機会に、ぜひご家庭でも調べてみましょう。(あくまで一部です。全てではありません。)

○防災に係る無線や長崎市のホームページなどで情報を収集する。あらかじめ、長崎市の危機管理室のページなどを確認しておく。

○防災マップ(ハザードマップ)で住んでいる地域を確認し、あらかじめ氾濫危険地域、土砂災害の危険度を調べておくこと。社会科では、日本の気候や日本における自然災害を学習する時に、防災マップ(ハザードマップ)がでてきます。

○氾濫の危険性がある河川や用水路には近づかないようにする。

○道路では、大量の雨水が下水管に流れ込み、マンホールのふたが浮き上がったたり、ふたが外れてしまうこともあるので、冠水した道路には要注意です。

○地下や半地下では、浸水によって、逃げ遅れることがあるそうです。気をつけましょう。

いのししに注意！

先週、学校を出て、校門を閉めて帰ろうと道路に出た少し進んだところ、車を前を親のいのしし一匹、うり坊4・5匹が横切り、住宅地てくてく歩いて行きました。うり坊4匹は、初めて見ました。ご注意ください！